別紙様式２－２

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
（次期学習指導要領に向けた実践研究）
成果報告書（概要）

受託団体名
千葉県教育委員会

１　指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
千葉県	特別支援学校	知的障害	千葉県立夷隅特別支援学校（ちばけんりついすみとくべつしえんがっこう）

２．事業の実績

（１）事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 5 月～ 平成 31 年 2 月	＜授業実践及び教育課程編成の検討＞	・研究内容の方向性及び妥当性 ・キャリア発達の視点を踏まえた学習活動
平成 30 年 5 月	＜第 1 回キャリア教育研究協議会＞ ・研究の状況と方向性について協議 ＜研修会＞ 講師:植草学園大学発達教育学部　菊地一文准教授	・研究内容の妥当性 ・研究の進め方 ・キャリア教育の理解
平成 30 年 6 月	＜授業研究会＞ ・小学部「音楽」中学部「道徳」高等部「美術」	・キャリア発達の視点を踏まえた学習内容
平成 30 年 7 月	＜研修会＞ 講師：社会福祉法人佑啓会ふる里学舎 松橋達也センター長 講師：元 PTA 会長	・「本人の願い」の理解
平成 30 年 8 月	＜研修会＞ 講師：千葉県立障害者高等技術専門校 髙瀬浩司主査	・キャリア教育の理解
平成 30 年 10 月	＜第 2 回キャリア教育研究協議会＞ ・公開研究会について ・研究中間報告 ＜先進校視察＞ 平成 30 年 10 月 24 日 （千葉県立印旛特別支援学校さくら分校）	・公開研究会の内容，進め方 ・研究実践への活用
平成 30 年 11 月	＜先進校視察＞ 平成 30 年 11 月 29 日 （千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校）	・研究実践への活用

平成 30 年 12 月	＜先進校視察＞ 平成 30 年 12 月 13 日 （千葉県立特別支援学校市川大野高等学園）	・研究実践への活用
平成 31 年 1 月	＜先進校視察＞ 平成 31 年 1 月 25 日 （愛媛大学教育学部附属特別支援学校） 平成 31 年 1 月 26 日 （広島県立三原特別支援学校） ＜県主催　平成 30 年度　実践研究報告会＞ ＜公開研究会＞ ・小学部「国語・算数」 ・中学部「総合的な学習の時間」 ・高等部「作業学習」 ・講演会　講師：植草学園大学発達教育学部 菊地一文准教授	・研究実践への活用 ・授業の評価 ・キャリア教育の理解
平成 31 年 2 月	＜第 3 回キャリア教育研究協議会＞ ・研究の成果と課題 ・次年度の方向性について	・研究の成果と課題 ・次年度の方向性
平成 31 年 3 月	＜次年度の研究計画の作成＞	・次年度の計画

（２）研究課題

各教科間の関連性や校内における学部間のつながり，家庭・地域や産業現場との連携の在り方などについて検討し，小学部段階から連続したキャリア教育を推進するための教育課程の編成や指導方法等について研究する。

（３）研究の概要

児童生徒の卒業後を見据え，教員が児童生徒と思いや願いを共有したり，共に活動したりする中で，「なぜ・なんのために」（目的），「何を」（内容），「どのように」（方法）を明確にした授業を実践し，児童生徒のキャリア発達と教員のキャリア発達を目指し，次に示す取組を行った。

１　「なぜ・なんのために」，「何を」，「どのように」を明確にした授業実践・評価をとおして，キャリア発達を引き出すための授業づくりを検討した。

２　個別の教育支援計画を活用して「本人の願い」を引き出し，児童生徒と教員の思いをすりあわせた学習を計画した。

３．教科・領域毎に，小・中・高それぞれの段階に応じた学習指導略案を作成し，次の学部段階へ発展する内容や他教科・領域とのつながりを検証した。

（４）研究の成果

１　「なぜ・なんのために」,「何を」,「どのように」を明確にした授業実践の成果

①単元計画作成によるＰＤＣＡサイクルの確立

日々の授業，授業研究会等での授業を検証した結果，授業づくりにおける PDCA サイクルの各項目において成果がみられた。

P（計画）	・学習活動の目的から再確認，単元計画作成による「育てたい力」の明確化
D（実践）	・キャリア発達するための手立ての観点の作成と活用 ・児童生徒が学習に対する意味づけや価値づけするための「振り返り」の工夫 ・実態に応じた「問い」の工夫 ・目標の明確化による児童生徒の主体的な姿，キャリア発達の姿
C（評価）	・「育成を目指す資質・能力」の３つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力，人間性等」）での評価による児童生徒の学習状況の把握 ・定型文（「～をねらい（目標）～を行った（内容）。～することにより（方法）～できた（結果）」）を使った授業評価による目標，手立て，成果の明確化
A（改善）	・評価をもとにした発展的な学習内容の計画，目標の設定

単元計画を作成し，単元を振り返ることは，今までも行われてきたことであるが，本研究をきっかけに，単元計画作成の意義を改めて確認することができた。

２　本人の願いについての成果

①職員研修の実施

キャリア教育研究協議委員から「卒業後の生活，地域とのかかわり」をテーマに講話を実施した。

地域で生活する特別支援学校卒業生の具体的なエピソードを聞く中で，本人主体で物事を進めていくことの大切さを学ぶことができた。

３　小学部から高等部に至る系統性について

①校務分掌「教科・領域」ごとに指導略案作成の実施

小学部，中学部，高等部それぞれの段階に応じた発展的な学習内容を略案にして整理することで，学部間の系統性に関する意識の向上を図ることができた。

②学部間研修の実施

勤務経験のない学部での一日研修を実施し，学習内容や指導方法を学ぶ機会とした。

③研修会の実施

「各学部で大切にしたいキーワード」を話合い，教員投票で決定する研修を実施した。社会的・職業的自立に向けて小学部段階から大切にしていきたい育みたい姿（力）について共通理解を図り，本校で目指す姿をまとめることができた。

４　教員のキャリア発達について

①教員研修の実施

教員のキャリア発達について校長を講師として研修会を実施した。「基礎的・汎用的能力」を教員自身の取組み内容に当てはめて考えたことで，キャリア教育への理解が深まった。

②アンケートの実施

研究の成果と課題を明らかにするために，本校教員を対象にアンケートを実施した。「授業実践で

『なぜ・なんのために』を意識するようになったか」の問いに対して「できた・ややできた」の割合が 100%であった。また,「研究を通して，自身のキャリア発達を感じたか」の問いに対しては「はい・やや当てはまる」の割合が 95%であった。「なぜ・なんのために」という学ぶ意義を明らかにすることを意識して授業づくりに取組んだことで，教員の児童生徒への向き合い方や考え方が変容し，キャリア発達が促された。

（５）課題と今後の方策

１．本人の願いの捉え

教員側の授業に対する「なぜ・なんのために」の意識は高まったものの，児童生徒にとっての学ぶ意義については不明確な部分があった。アンケート結果からも，児童生徒の思いをどのようにくみ取り、授業に反映させていけば良いのかについて課題が見受けられた。児童生徒の願いの捉えについて，教員間で共通理解を図り，個別の教育支援計画や個別の指導計画を関連させ，授業に反映できるようにしていく。

２．地域協働に向けての取組み

学校の中だけではなく，地域や他者とかかわることで，児童生徒のキャリア発達をさらに支援していく必要がある。地域協働に向けて，今までの取組みを見直すとともに，地域協働を軸として各学部の年間指導計画を見直していくことで，キャリア発達を支援する教育課程を編成していく。